

阿蘇地域における夏ソバ品種「なつみ」の栽培技術

阿蘇地域における夏ソバ品種「なつみ」の栽培において、収量と品質の安定性を考慮すると5月下旬播種が適する。5月下旬播種の場合、窒素施肥量が0.6~0.8kg/aで、開花数増加に伴い収量が向上する。

農業研究センター高原農業研究所(担当者:林田裕樹)

研究のねらい

阿蘇地域では観光とタイアップした地産地消でソバ栽培が取り組まれているが、近年の不良気象により収量は不安定である。そこで秋期栽培での不良気象による被害を回避するため夏ソバ栽培用品種「なつみ」を導入し、生産現場においても栽培が開始されている。

しかし、「なつみ」における耕種基準が無く、安定した生産が求められるため、適正な栽培技術を確立する。

研究の成果

1. 阿蘇地域において「なつみ」の収量・品質を安定させるには、梅雨明け後に収穫することが望ましく、そのための播種期は5月下旬が適当である。(図1、2)
2. 5月下旬播種の場合、収量を向上させるための窒素施肥量は0.6kg/a~0.8kg/aである。(図3)
3. 10kg/a程度の収量を確保するための開花期におけるLAI(葉面積指数)は1.4程度が必要である。(図4)
4. 窒素施肥により開花数を増加させることが収量向上に有効である。(表1)

普及上の留意点

1. 播種量は0.6kg/a、播種方法は条播(条間50cm)で試験を実施した。
2. 6月に入ってから播種では播種直後に梅雨入りとなるため、5月末までに播種する。
3. 収穫期に降雨が予想される時は、早めの収穫を心がける。
4. 鳥害対策が必須である。

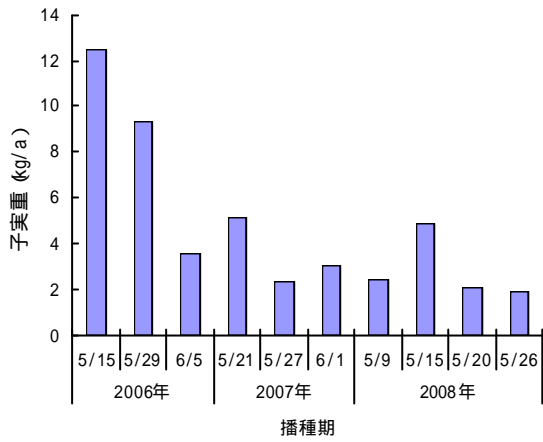


図1 播種期と子実重

注1 窒素施肥量は0.2kg/a

注2 2006年、2008年の5/15播種については開花期 成熟期が少雨傾向であった

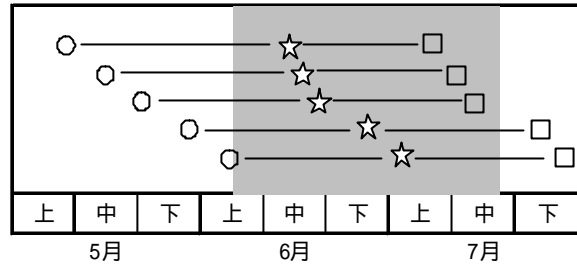


図2 播種期別の生育ステージ

注1) 播種期、開花期、成熟期

注2) 梅雨入りの平年値は6月5日、梅雨明けは7月18日

注3) 黒塗りは梅雨期間を示す

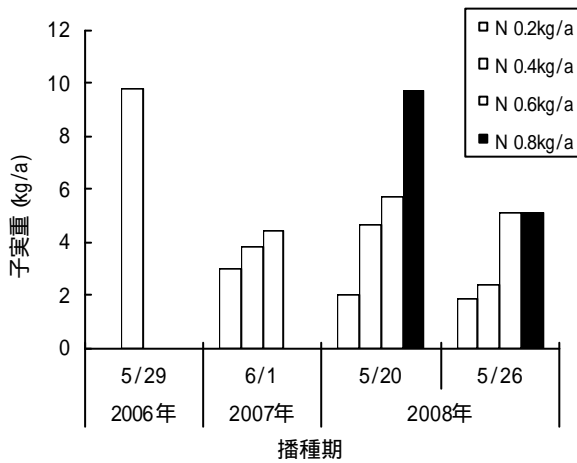


図3 播種期 施肥量と子実重

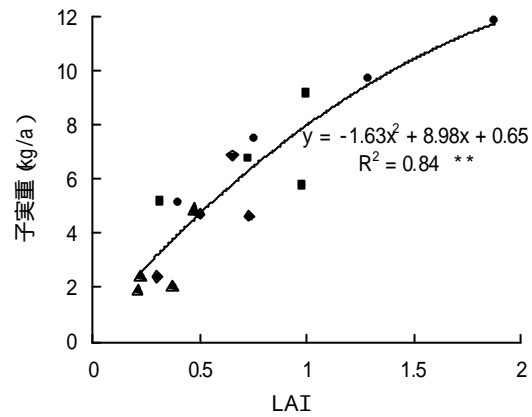


図4 LAと子実重との関係 (2008年)

注) 窒素施肥量0.2kg/a、.04kg/a、.06kg/a、.08kg/a

表1 収量関連形質

窒素施肥量 (kg/a)	稔実粒数 (/個体)	開花数 (/個体)	結実率 (%)	子実重 (kg/a)
0.2	14.9 c	116 c	11.7 a	2.8 c
0.4	17.3 bc	142 bc	11.9 a	4.7 b
0.6	22.2 ab	171 ab	12.5 a	6.7 a
0.8	26.4 a	189 a	14.2 a	8.5 a

注1) 結実率 = 稔実粒数 / 開花数 (稔実粒数 + しん数 + 未受精花数) × 100

注2) 試験年は2008年、播種期は5/9、5/15、5/20、5/26を平均した

注3) 同一アルファベット間には5%水準の有意差無し